

1 調査経過

今回の調査は、興福寺北円堂院南門および回廊の発掘調査である。

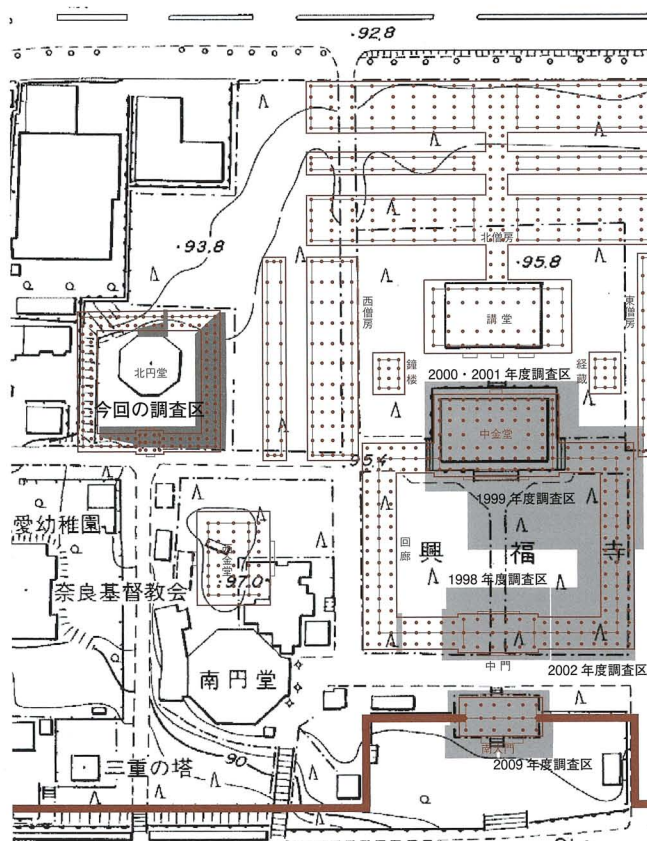
興福寺では、第1期境内整備事業にともない、興福寺境内の発掘調査を奈良文化財研究所へ委託し順次おこなっている。1998年度から2004年度にかけては中金堂院の調査をおこない、中門（1998年度）、中金堂（2000年・2001年度）、回廊および内庭部（1999・2002・2004年度）の発掘調査を完了した。また、2009年度には南大門の発掘調査をおこなった。今回の調査もこの境内整備事業の一環で、興福寺境内西部にある北円堂を囲っていたとする南門および回廊の遺構の確認を目的とする。

北円堂周辺では、1975・1976年度に防災施設工事にともなう発掘調査がおこなわれており（以下、工事を防災工事、調査を防災調査とする）、北円堂院回廊のうち、西面・北面で回廊礎石と基壇外装を、東面で基壇土の範囲を確認している。本調査ではこれらの成果を参考に、北円堂院回廊の遺構を全面的に確認することを計画したが、北円堂南側を通る境内道路や防災工事で設置した耐火壁、既存の樹木などにより発掘可能な個所が制限された。そのため、それらを勘案したうえで可能な限り調査面積を広くするように調査区の設定をおこなった。その結果、東面回廊のほぼ全体と南面回廊の北約4分の3、北面回廊の一部が調査されるように、東西41.7m、南北45.2m、幅10mの逆L字型の調査区と、東西10m、南北5mの台形の調査区の2個所を設定した。また調査開始後、北面回廊北辺の遺構を確認するために、北区の一部を約4m北に拡張した。

調査は、2011年7月1日から開始し、10月11日に終了した。調査面積は合計676㎡である。調査では、南門基壇と回廊の遺構を確認し、北円堂院回廊の規模や変遷にかかわる情報を得た。

第1表 調査経過

6月6日	現地協議。
6月13日	調査区設定。
7月1日	調査開始、調査区西辺より人力掘削開始。
7月4日	測量用基準点設置。
7月12日	南門基壇外装抜取溝、南面回廊北側の瓦溜を検出。
7月13日	近世道路を埋め立てた際の暗褐色土を検出。
7月15日	回廊東南隅の暗渠を検出。
7月22日	東面回廊礎石痕跡を検出。
7月27日	東側の表土が厚いことを確認、重機掘削開始。
7月29日	北区調査開始。
8月8日	東面回廊各所で地覆石出土。
8月10日	近世道路遺構撮影、北区拡張。
8月17日	近世道路路面を掘り下げ、回廊地覆石検出。
8月18日	瓦溜の下で焼土面が広がることを確認。
9月7日	ハイライダーによる全景写真撮影、実測開始。
9月8日	現場にて検討会。
9月13日	断割調査開始。
9月15日	記者発表。
9月17日	現地見学会（800名）。
9月22日	地覆石石材調査。
9月27日	東面回廊中央部調査終了、砂撒き。
10月4日	南面回廊調査終了、砂撒き。
10月11日	すべての調査終了、砂撒き、撤収。



第1図 調査区位置図